

歴史文化学科

Department of History and Culture

学びの内容を
知るための

10
のポイント



POINT

01

歴史と文化、日本と世界を横断した学びに対応する
充実した教員構成をとっています。



野口 朋隆 (日本近世史)



松田 忍 (日本近現代史)



毛利 英介 (東洋史)



湯上 良 (西洋史)



三野 行徳 (アーカイブズ学・日本近世史)



鶴岡 明美 (日本美術史)



永井 裕子 (西洋美術史)



大谷津 早苗 (民俗学・芸能史)



小泉 玲子 (日本考古学)



村上 夏希 (文化財保存科学)

歴史分野

文化分野

客員教授

加藤 丈夫 (前国立公文書館長) / 徳川 家広 (徳川記念財団理事長)

学びのイメージ

西洋史ゼミに所属している
3年 古屋 ひよりさんの例



高校で世界史を学び、大学で専門的に西洋史を学ぶため、歴史文化学科に入りました。1・2年次に西洋史概論や西洋美術史概論、学芸員課程の博物館概論等を履修し、基礎や方法論を学びました。また、考古学・民俗学・文化財学など幅広く履修し、分野を横断した異なる視点から考える方法も身につけることができました。

さらに、1年次にポストン短期留学、2年次の春休みにヨーロッパ歴史文化演習でイタリアに行き、実践的に深く学びました。加えて、S-GLAP というグローバル社会で求められる力を身につけるプログラムにも参加しています。このように、国際系学科ではない本学科でも多くの国際的な経験が得られます。以上のような経験を経て、現在は西洋史ゼミに所属し、卒業論文執筆に向け、より専門的に自身の研究分野を追及しています。

学科外では文化祭の実行委員会や吹奏楽部で活動しています。学科外の友人たちからも日々刺激を受けながら過ごしています。



POINT

02

初めて学ぶ分野でも学問の基礎から知識と方法を習得する仕組みがあります。また複数分野をまたがって学ぶマルチディシプリンを実現する環境があります。

POINT

03

研究の基礎力を習得させる充実した学科必修授業がおかれています。

1年生～2年生

◎概論科目で各分野の基礎知識を習得

考古学概論
西洋美術史概論
西洋史概論

1年生～2年生

◎基礎・調査法系科目で学問の方法論を習得

西洋美術史基礎
文化財保存学基礎
西洋史史料解読

1年生～2年生

◎充実した必修授業で実践的な研究力を磨く

1年次 歴史文化基礎Ⅰ

2年次 歴史文化基礎Ⅱ

2年生～3年生

◎特論科目で研究の最先端を学ぶ

西洋史特論

3年次 西洋史演習（ゼミ）

4年次 歴史文化演習（ゼミ）

【その他の修得科目—古屋さんの場合】

博物館概論／アーカイブズ概論／博物館教育論／民俗学概論
ヨーロッパ歴史文化演習／西洋文化史 などその他多数

卒業論文

POINT

04

歴史文化に関わる選択科目が豊富に用意されており、組み合わせることで、学びの幅は大きく広がります。

POINT

05

3・4年次の少人数ゼミでは、卒業論文（必修）を執筆します。研究の過程で、社会で必要とされる調査力、分析力、プレゼン力、文章表現力などを身に付けて卒業します。

POINT

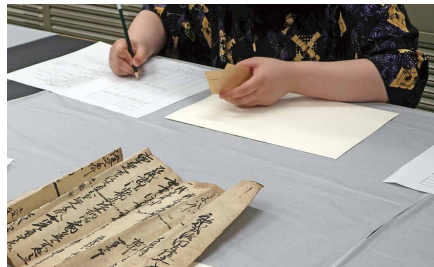
06

様々な資格を取得でき、MLA3資格も取れる
全国でも数少ない学科です。

【取得できる資格】歴史文化学科では下記の資格を取得することができます。

学芸員／考古調査士(2級)／高等学校教諭一種(地理・歴史・公民)／中学校教諭一種(社会)／図書館司書・司書教諭
／文書情報管理士(2級)／昭和女子大学認定アーキビスト(2級)／日本語教員(大学認定証)／社会福祉主事(任用資格[※])

※任用資格とは公務員に採用された後、特定の業務に任用されるのに必要な資格です。



M 博物館
Museum

学芸員【博物館資料のスペシャリスト】

L 図書館
Library

司書【図書館資料のスペシャリスト】

A 文書館
Archive

アーキビスト【記録資料のスペシャリスト】

POINT

07

専門の学びを実践力とつなげる
豊富なプロジェクトがあります。

プロジェクト名	担当教員	活動の概要
江戸幕府日記刊行会	野口朋隆	「江戸幕府日記」を翻刻し(くずし字を読み)刊行する。
井関隆子日記刊行会	野口朋隆	昭和女子大学附属図書館所蔵「井関隆子日記」の現代語訳をしていく。
旗本荒尾家 アーカイブ・プロジェクト	野口朋隆 三野行徳	江戸幕府の家臣であった荒尾家に残された古文書を整理・写真撮影した上で、光葉博物館で企画展示を行う。荒尾家に関する史跡を訪問する。
光葉博物館デジタル アーカイブ・プロジェクト	三野行徳	光葉博物館の収蔵資料を整理・調査・撮影し、デジタルアーカイブを作って公開していく。
戦後史料を後世に 伝えるプロジェクト	松田忍	被爆者運動の史料をはじめとした実物の歴史史料に触れ、分析・研究し、発表する活動。学術展示や雑誌への投稿など様々な研究発表の機会がある。
民俗芸能の次世代継承 プロジェクト	大谷津早苗	若手伝承者の発表の場をつくり、技術的な研鑽を積む場をつくる。若手伝承者同士がお互いの発表を見学し、交流、意見交換のできる場を作る。一般の人々に民俗芸能を見て知ってもらう機会をつくる。
椎葉巡見プロジェクト	大谷津早苗	宮崎県椎葉村内の盆行事の民俗調査、椎葉神楽継承に向けての活動、調査報告書の発行。
東京・日本橋地域× 昭和女子大学 SDGs TERAKOYA(寺子屋) プロジェクト	大谷津早苗 小泉玲子 鶴岡明美 太田鈴子	日本橋地域での環境や女性の活躍をテーマとし、持続可能な解決策を考案していく活動。
中屋敷遺跡発掘調査	小泉玲子	神奈川県中屋敷遺跡(弥生時代前期)の発掘調査。準備・運営、調査後の整理作業、報告書の作成。
		<p>授業を超えて「古文書を取り扱ってみたい」という気持ちで参加しました。プロジェクトでは旗本荒尾家に関する古文書の整理を行っています。荒尾家が特に大切に保存していたと思われる古文書を取り上げた際には、驚きと感動を覚えました。古文書一つひとつに番号をつけ、影や光の反射等に気をつけるなど、撮影方法や資料保存の面でも学ぶことが多いです。春には、鳥取県で荒尾家に関連する城や墓、博物館での資料見学などを行いました。光葉博物館での展示に向けて、これからも理解を深めていきたいと思っています。 (3年 眞部愛弓 さん)</p> 
		<p>歴史文化学科にいると多種多様な国の伝統文化について知る機会があります。私はそういった伝統文化の世界に入り込める場として、かつ授業で学んだその先を知り、自発的に何か行動を起こしてみるきっかけの場所として、本プロジェクトに参加しています。現場では観客と裏方双方の視点を体験できるのでとても面白く、様々な方と交流しながら楽しく活動しています。 (3年 小俣ひと花 さん)</p> 
		<p>本プロジェクトは、東京日本橋で江戸時代に創業した老舗の経営者にSDGs・歴史・経営などインタビューし、その内容を動画にしますが、準備・取材・動画制作まで学生が行います。その動画を使った小学校での出前授業・日本橋地域のイベントのお手伝いを多数行ってきました。このプロジェクトを通して、社会で必要となる言葉遣いや文章力、傾聴力等多種多様なスキルを磨き、上級生下級生の仲間と学生生活を楽しむことができます。 (2年 荻野紗衣 さん)</p>

POINT

08

グローバルな環境で歴史文化の学びを実現する 留学プログラムがあります。

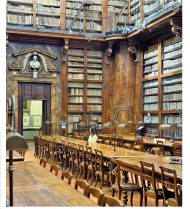
昭和ボストンサマーセッション Museum and Art Collections

このプログラムでは、美術史やアメリカ社会での博物館・美術館の役割について学びます。ボストンの作家との交流や美術館訪問、エドューケーターからの話、普段立ち入れないバックヤード探訪などの機会があります。日本の文化財もあるため、異文化を知るだけでなく、自らの文化を俯瞰的に捉えることもできます。アメリカ文化・日本文化に興味がある人、英語が得意な人や苦手な人、どんな学生も貴重な経験になるでしょう。ぜひこのプログラムに挑戦してみてください！（4年 高橋双葉さん）



ヨーロッパ歴史文化演習B

国立ヴェネツィア文書館を見学して、所蔵されている膨大な文書量に驚きました。貴重な文書が総延長80kmにも及ぶ書架にびっしりと収められている姿は、講義で見た写真から感じたものよりはるかに迫力があって圧倒されました。国立マルチェリアーナ図書館では、司書でもありアーキビストでもある館長からイタリアのアーカイブズの話聞き、日本との違いを学ぶことができました。現地で受ける専門の講義と見学を通じて、イタリアの誇るアーカイブズを肌で感じました。（3年 齋藤奈優さん）



POINT

09

学科独自の充実した キャリア支援プログラムがあります。

キャリアを見据えた4年間をサポートする仕組み

歴史文化学科(歴史)の入学生には、4年間の過ごし方のモデルを示した冊子「歴史生の4年間」を配布します。これには、学びの集大成である卒業論文の執筆と卒業後のキャリアを見据え、各学年でなすべきことが具体的に示されています。また、3年生対象のキャリア科目「歴史文化と社会I」を開講するほか、1年生対象科目の「歴史文化基礎I」・各学年対象の年度末企画においてキャリア講座を設け、段階に応じた支援をします。2014年度以来、教員を輩出していることも、歴史文化学科でのキャリア支援の成果です。



3年生キャリア科目 歴史文化と社会I

歴史文化学科の教員や外部講師による就職活動の準備科目。インターンシップのためのエントリーシートの添削、グループディスカッションの実践練習や、プロの就職講師による授業など、役立つ多彩な講義を実施します。



POINT

10

みなさんの目標となる 素敵な先輩や卒業生がたくさんいます。

歴史文化学科は自分の学びにたくさん選択肢を与えてくれるため、あらゆる分野に興味があった私にとってはピッタリな環境でした。私は近世史や建築史を中心に学びたい!と入学当初思っていたのですが、いつの間にか生活に身近な学問である民俗学に惹かれ、民俗学の道を進んでいました。また、「手で考え、足で見る」という歴史文化学科のモットーのように、実際に講義内で資料に触れる機会や自分の目で見る、そして体験する機会が非常に多くあり、座学では得られない自分だけの学びを得ることができます。コース分けがなく、自分の興味のある講義を選べることができるため、歴史や文化を多角的な視点で見たい、能動的な学びがしたい方にはおすすめの学科だと思います!

(4年 西堀藍弓さん)



歴史文化学科の魅力は、多岐にわたる講義から自分の関心を自由に深められる点にあります。私は色々な歴史文化に興味を持っており、入学後は座学の講義だけでなく、「伝統文化の現場」での茶道や注連縄作りの体験、特殊研究講座や独自の学会での新しい見解や知識の獲得など、多彩な演習やプログラムに参加しました。これら歴史文化学科での経験は入学前には知らなかった学問の楽しさを教えてくれ、私の視野を広げてくれました。さらに、自分と同じく歴史文化に興味を持つ仲間や、高度な専門性を持つ個性的な先生方と出会えることもこの学科の大きな魅力です。学びは一人だけでは生まれません。これらの出会いがあったからこそ、歴史文化の深遠さと研究の楽しさを知り、私は大学院への進学を決意しました。

(卒業生・大学院生活機構研究科
修士2年 田中さくらさん)



学科の最新の活動は、歴史文化学科ホームページや学科ブログでも紹介しています。



● 歴史文化学科HP

<https://univ.swu.ac.jp/faculty/university/culture/rekibun/>



● 学科ブログ

<https://content.swu.ac.jp/rekibun-blog/>



● オープンキャンパス情報

https://exam.swu.ac.jp/campus/c_ocan/department/culture#p02

昭和女子大学 人間文化学部 歴史文化学科

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂1-7-57 Tel.03-3411-5154(アドミッションセンター) e-mail:spass@swu.ac.jp

Showa Women's University

1-7-57 Taishido, Setagaya-ku, Tokyo 154-8533, Japan Tel 81-(0)3-3411-5154(Admission Center)

2024年6月(通号:25号)